

# 令和4年度指定管理業務に関する事業報告書（地域包括支援センター）

センター名 小川地域包括支援センター

## 1 施設の管理運営

|   |
|---|
| 【高齢者福祉施設小川 小川会議】月1回<br>【高齢者福祉施設小川 部門代表者会議】月1回<br>【高齢者福祉施設小川 在宅部門会議】月1回<br>【小川地域包括支援センター 部署会議】月1回<br>【小川地域包括支援センター 三専門職種会議】週1回 |
| (参考) 今後実施予定の指定管理者提案内容   |

## 2 事業実施内容

|  |
|--|
| ①高齢者総合相談<br>②一人暮らし高齢者宅訪問活動<br>③小川地域ケアシステムの構築<br>地域ケア会議の開催「コロナと共に生きる地域」withコロナ時代の地域活動について、引き続き協議を行った。他、計14回の地域ケア会議を開催し、個別事例の検討、勉強会等を行った。<br>④地域の居宅介護支援事業所・介護サービス事業所の資質向上<br>定期的に研修会・交流会を開催。<br>⑤虐待対応 令和4年度は24件。 |
| (参考) 今後実施予定の指定管理者提案内容  |
| (参考) 自主事業内容  |

## 3 サービス提供状況

|  |
|--|
| 【職員体制】<br>主任介護支援専門員（1名）保健師（2名）社会福祉士（2名）<br>体制強化員（1名）<br>加配：介護支援専門員（2名） |
| (参考) 今後実施予定の指定管理者提案内容  |

## 4 市内中小企業への発注に対する考え方

|   |
|---|
| (1) 業務内容が専門的な知識を必要とし、かつ担当職員では対応が困難な業務の場合。<br>(2) 法人が専門的に行う業務ではないため、専門に行う業者のほうがより効率的にかつ質の高い物が提供できると判断できる場合。<br>(3) 備品購入等の発注については市内業者を優先して活用。 |
|---|

## 5 施設の利用状況（施設の稼働率、利用者数、事業参加者数など）

(1) 介護予防支援給付対象者数（実績値）

3278 人

(2) 相談延べ件数（実績値）

1714 件

### (3) 収支実績

#### ア 令和4年度収入状況（単位：円）

|        |            |
|--------|------------|
| 委託料    | 26,682,200 |
| 介護保険収入 | 16,457,472 |
| その他    | 243,958    |
| 収入計    | 43,383,630 |

#### イ 令和4年度支出状況（単位：円）

|       |            |
|-------|------------|
| 人件費   | 27,474,529 |
| 事業費   | 1,186,081  |
| 委託費   | 3,690,182  |
| 小額修繕費 | 81,245     |
| その他   | 6,563,763  |
| 支出計   | 38,995,800 |

## 6 施設の利用者満足度の把握

### (1) 利用者満足度の把握状況

令和4年6月及び令和5年2月に郵送にてアンケート調査を実施した。  
内容は、①職員の言葉遣いや身だしなみ、対応等について、②職員は相談、対応しやすい態度か、③介護予防ケアプランの内容に満足しているか、④その他、自由記載、とした。

### (2) 利用者満足度把握の結果

（令和4年6月実施分）  
265通発送、回答190通、回答率71.63%  
【回答属性】（性別）男性21% 女性71% 無回答8% （年齢）60歳未満0% 60代3% 70代19% 80代61% 90歳以上13% 無回答4%  
【①】よい76% ふつう23% あまりよくない/よくない 0%  
【②】よい78% ふつう19% あまりよくない/よくない 2% 無回答1%  
【③】大満足0% 満足62% ふつう33% 改善が欲しい3% 無回答2%

（令和5年2月実施分）  
265通発送、回答164通、回答率61.9%  
【回答属性】（性別）男性20% 女性73% 無回答8% （年齢）60歳未満1% 60代2% 70代16% 80代59% 90歳以上16% 無回答6%  
【①】よい71% ふつう27% あまりよくない/よくない 2%  
【②】よい79% ふつう16% あまりよくない/よくない 3% 無回答1%  
【③】大満足0% 満足60% ふつう37% 改善が欲しい2% 無回答1%

### (3) 意見等への主な対応状況

アンケート結果は部署内全員で確認、自由記載に個別職員への対応記載がある場合は、センター長と個別職員との面接を実施し、対応の改善について話し合った。

## 7 評価（指定管理者自己評価）

- ・6学区の民生委員、老人福祉員等の地域組織との顔の見える関係づくりに力を入れ、学区地域ケア会議での事例検討を重ねた。また、再開された地域活動への参加を通じて、地域で活動される関係者との連携を深めることができた。
- ・居宅介護支援事業所、介護サービス事業所、関係機関へ交流や研修の機会を確保し、地域の介護サービスの質の向上に努めた。
- ・個別の対応力の向上を図るため、センター内での事例検討会を開催した。虐待に関わらず、多問題を抱える事例については、専門職会議で毎週検討を重ねた。
- ・北区・上京区の9包括協働事業である移動型認知症カフェ「出向くカフェ」の開催に取り組んだ。第1回は小川施設の駐車場で開催し、多くの方に来場していただいた。
- ・小川学区のスーパーが廃業したことから、買い物難民が発生している状況があり、この解決のため、小川住民福祉協議会、上京区地域支えあい活動創出コーディネーター等と協働で「小川カミングプロジェクト」を立ち上げ、同志社大学の学生の協力も得ながら、定期的なマルシェ（立売）の開催を目指している。
- ・加齢に伴う心身状態の変化、疾患による障害を理由とする差別の解消に向けた職員研修により理解を深めた。